

615

1

天保十四年卯五月日

下書

御上若旦那但馬様被為遊

御入城候ニ付諸事心控帳

2 (白紙)

3

御触写し

一 惣町貸家之義見苦敷無之様取繕之義

被仰渡町々申代より可申候間急々未々御取繕

可被成候、以上

末次彦右衛門

五月十二日

一 町方損所取繕并道造候義先達而被仰付候

ニ付出来候所明日御見分可有之候所一日御猶予

ニ相成明後廿一日ニ御見分之旨被仰渡候間此段

左様御心得可被成候、以上

同家

五月十九日

4

若旦那様此度被為遊御入城候申、尤

申限之義不近申可被仰出旨被仰渡候間此段

左様御心得

同家

五月廿申

若旦那様〇る廿六之御発駕、同廿八日被為遊

御入城候由申頼旨被仰渡候

十一 入津米主千俵惣町願之通御聞届被

仰付候旨被仰渡候

右之通左様御心得可被成候

同家

五月廿十申

5

来ル廿八日被為遊御入城候ニ付町家

出来之者共旧例之通御迎ニ罷出候様被

仰渡候、尤病氣故障も有之候ハ、其旨書附

明朝迄ニ私宅へ御廻し可被成候、以上 同家

五月廿六日

御用御目見へ之節心得のため

廿六日同席申合御座敷拝見ニ罷出引野

久之承殿相願寛々拝見いたし候事

一 御入城御当日、且又御発駕之節町方御通行筋盛砂并水打提桶籌等

6

差出し翠簾釣候様

一 御通之節町家之者座敷の上ニて拝見

致候義ハ不相成候間庭へ下り敷物をしき敷居の内ニ而拝見可致事

一 九曜御紋付拝領日仰付候者共一代切ニ

候處猥りニ着用致候趣も有之候様相聞已来ハ拝領致候者之外嫡子之義も

着用不相成旨被仰出候

若旦那様明廿七日御来屋御泊り候ニ而明後

廿八日御入城被為遊旨、尚又被仰渡候一同

7

当日已之上刻旧例之通御迎ニ御出可成候

五月廿六日 末次彦右衛門

此度

廿八日巳之刻同席之者勝田社舞戸

彼是余程隙入候様子

ニ相詰時刻相見合候内牛之刻ニいたり

候ニ付并当取寄支度相仕舞等相仕舞候内

遠見の者より寺尾貴船社へ御着之よし申出ニ付例之法城寺前ニ道筋出迎

候處尤未之刻御入府被為遊、尤御徒士衆より中腰ニ相成御打物より下座

8

致し罷在候処御奏者山内猪之丞様より

別触之町人ニ御披露被成町年寄共へハ

御同役築瀬九七郎様より年寄之者共と

御披露有之 候事 付たり御家老牛尾

九郎右衛門様御供ニ付御挨拶申上直様大道を通り罷帰り□□ニ而御行烈拝見いたし

少し相見合御老役村瀬日置牛尾御町奉行
中村瀬・熊沢大目附伊木御長臣村河右
七軒御入城御歛ニ罷出候事